（3）令和5年度の主な社会教育事業の実施状況について　資料３

1　豊かな心と健やかな体を育成する

（１）教育の原点である家庭教育、幼児教育の推進

事業名：家庭教育支援の推進及び幼児共育の推進（H12 開始 H16 年度組替 H22 統合継続 H28 統合継続）	
令和５年度事業の実施状況	成果（○）と課題（▲）
1　家庭教育支援の推進 （１）県家庭教育支援推進協議会の開催：年１回 ・ 委員委嘱：11 名（関係課 2） ・ 県家庭教育アドバイザーの委嘱：26 名 （村山 13　最上４　置賜５　庄内 4） ・ 地域における家庭教育支援の充実 （２）学習機会・情報の提供 ①やまがた子育ち生活習慣改善事業【国補助】 ・「やまがた子育ち５か条」リーフレット（保護者用学習資料）を活用した、子どもの生活習慣に関する指針の普及（R5.8 月までに 20,000 部印刷） ・「県家庭教育アドバイザー委嘱状交付式兼家庭教育支援研修会」の実施（4 月 18 日対面・オンライン併用） ・リーフレットを活用した講座や研修会の実施回数の取りまとめ（実績報告に合わせて提出） ・県 Twitter や雑誌等を通して周知（5 月、2 月） ・県内ローソン 107 店舗に各 20 部設置（４～５月） ・庄内、置賜イオン３店舗に各 20 部設置（12 月） ・Google 検索「子ども　生活」で検索ランキング７位（R5.12 月現在） ・子育て雑誌（mamaid）に掲載：1 月（２月号） ②やまがた子育ち講座【国補助】 ・市町村間接補助：31 市町村 158 講座実施予定 （R5.7 月末現在　※R5 本申請より） ※アフターコロナにおいて実績どうなったか注視 ③家庭教育出前講座（8 か所）【国補助】 （村山２　最上２　置賜２　庄内 2） ○村山：７月６日 黒田組（河北町） ２月２日 子どもの居場所づくりを考える会（上山市） ○最上:6 月 28 日 東山ふれあいサロン（新庄市） 11 月 11 日 地域の子ども会活動を考える会（新庄市） ○置賜:12 月 6 日 南陽ロータリークラブ（南陽市） 1 月 17 日 南陽ロータリークラブ（南陽市） ○庄内:12 月 14 日 庄内町民生委員・児童委員協議会（庄内町）	1　家庭教育支援の推進 （１）県家庭教育支援推進協議会の開催 ○「地域における家庭教育支援の充実」をテーマに、その実現に向けて協議し、様々な有意義な意見をいただくことができた。 ○家庭教育についての話を子どもも一緒に聞くことで効果が高まる等、今後の取組みの参考となる意見が出された。 ▲協議会での意見を受け、幼児向けの性教育の講座について今後情報収集を行う。 （２）学習機会・情報の提供 ①やまがた子育ち生活習慣改善事業【国補助】 ○年度初めに各学校や園等に活用資料を送付した際、リーフレットを希望する FAX 用紙を同封したところ、反響が大きかった。 ○年度当初にリーフレットの周知活用について共通理解する場を設けたところ、昨年度より配布数が増加した。 ▲学校におけるリーフレットの周知がまだ十分でない実態も見受けられる。ＳＮＳや広報誌等様々な媒体を利用して積極的な周知を継続する。 ②やまがた子育ち講座【国補助】 ○昨年度に比べ、各団体からの家庭教育に関する研修会の講師依頼が増え、実施につなげることができた。 ▲本申請数の半数ほどしか実施していない市町村もある。計画的な実施ができるよう、学校とも連絡・調整を図りながら市町村の担当者に働きかける。 ▲コロナ禍を経て、計画数自体が減っている状況を改善していく必要がある。 ③家庭教育出前講座 ○実施した講座の参加者からは、大変好評だった。少人数で、ニーズに合った講演を聞いていただくことができた。 ▲企業の働き方改革やコロナ禍の影響で、出前講座のニーズが少ない現状がある。

④「家庭の教育エッセイ」による情報提供 　県ホームページに、家庭教育に関するエッセイを家庭教育アドバイザーに執筆いただく。11 月に 2 名（高橋まゆみ氏、伊藤洋子氏）、12 月に 1 名（二瓶明美氏）のエッセイを更新追加。3 月にも更新予定。1 回の更新につき発達段階別に 3 つの記事を追加掲載する。	④「家庭の教育エッセイ」による情報提供 ○県家庭教育アドバイザーに、発達段階別にエッセイを寄稿いただき、発信することができた。
（３）相談機会の提供 ①家庭教育電話相談「ふれあいほっとライン」 ・相談件数：185 件（R5. 12 月末） ※昨年同期 206 件 ・広報カード:新小中 1 年生と乳幼児健診分 ・市町村広報紙掲載依頼：6 月･8 月 ・県 Twitter、雑誌による周知：5 月・9 月・1 月 ・子育て雑誌（mamaid）に掲載：9 月（10 月号）	（３）相談機会の提供 ①家庭教育電話相談「ふれあいほっとライン」 ○昨年度に比べ相談件数は減少している。傾向としては不登校傾向の相談が多い。 ○年度初めに配布している「ほっとラインカード」を見て電話をかけている保護者が多く、配布には一定の効果が見られる。
（４）研修機会の提供 ①家庭教育支援フォーラム（4 地区）【国補助】 ○村山：①5/10②10/18 ○最上：①6/3②9/7 ○置賜：①9/28②11/2 ○庄内：①6/9②8/31 ※ 家庭教育支援団体、読み聞かせサークルなど家庭教育支援にかかわる団体の参加促進を継続。より効果的なネットワークづくりのため、情報交換・交流の時間の設定を大切にした。 ※ より多くの関係者が参加しやすい環境を整備する観点から、オンラインの併用を工夫した。 ②「やまがた教育の日」記念講演 11 月 12 日（日） 対面・オンライン併用型の講演会 講師：前野 マドカ 氏（EVOL 株式会社代表取締役 CEO、一般社団法人ウェルビーイングデザイン理事、慶應義塾大学大学院 SDM 研究科付属 SDM 研究所研究員） 演題：親子のためのウェルビーイング講座 〜親も子も幸せに生きるために〜 参加者（含オンライン）：71 名	（４）研修機会の提供 ①家庭教育支援フォーラム（４地区）【国補助】 ○ＰＴＡ役員に限らず全ての保護者に案内を配布したことで、役員等以外の保護者の参加が見られ、多くの保護者に学習機会を提供することにつながった。 ○事業のねらいを捉え、対象者のニーズに合わせた内容で実施することができた。 ②「やまがた教育の日」記念講演 ○オンラインを活用したことで、遠方の講師を選定できたこと、参加者の幅が広がったことなどのメリットが見られた。

2　幼児共育の推進 （1）幼児共育ふれあい広場【国補助】 ・ 市町村補助：30 市町村 145 箇所実施（予定） （R5.7 月本申請） ※ 本申請数は例年並み。 ※ 関係者向けに事業の概要を伝えるリーフレットを作成。	2　幼児共育の推進 （1）幼児共育ふれあい広場【国補助】 〇昨年度に比べ、各団体からの家庭教育に関する研修会の講師依頼が増え、実施につなげることができた。（再掲） ▲本申請数の半数ほどしか実施していない市町村もある。計画的な実施ができるよう、学校とも連絡・調整を図りながら市町村の担当者に働きかける。（再掲） ▲コロナ禍を経て、計画数自体が減っている状況を改善していく必要がある。（再掲）

３　郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する

（１）郷土愛を育み、地域と協働する教育の推進

事業名：地域を知る情報ポータルサイト管理・運営事業、郷土の魅力発見・体験プログラム普及事業 （令和4年ポータルサイト開設、令和5年発見・体験プログラム開始）	
令和５年度事業の実施状況	成果（○）と課題（▲）
１　地域を知る情報ポータルサイト管理･運営事業 ・対象　主に小中学生 ・活動　一人一台端末において、郷土に関する資料を検索しやすい環境を整備することで、児童・生徒が探究型学習等に取り組みやすい環境を整備する。 ２　郷土の魅力発見・体験プログラム （１）村山教育事務所 【事業名】「秋の木の実でクラフトづくり」 【期　日】　令和5年10月28日（土） 【場　所】　出羽コミュニティセンター 【内　容】　山形市教委が主催する放課後子ども教室「ベニっこアフタースクール」のプログラムの１つを、中学生が主になって企画、運営する形で「地元の自然の材料を使ったクラフト教室」を実施した。　４回の企画会議を経て、事前準備段階で、中学生が自ら試作品を製作し見本として提示したり、参加した低学年の小学生が作業しやすいように道具や材料のセッティングをしたりした。参加者達は多種多様な材料を使いながら作品作りに取り組むことができた。 【その他】　本番までの準備日程 ①5/9（火）　②5/31（水）　③6/24（土） ④8/4（金）　⑤9/30（土）　⑥10/14（土） 普及啓発活動…2/7（月） （２）最上教育事務所 【事業名】「舟形町MY箸づくり体験講座」 【期　日】　令和5年12月16日（土） 【場　所】　舟形町中央公民館 【内　容】　舟形町のシンボルとして「エンジュ」という種の木がある。その木を使って、オリジナルの箸を作る活動を行った。中学生が舟形町に関するクイズを出したり、公民館を使ったレクリエーションを企画したりして、参加した小学生を楽しませることができた。箸づくりを通して、郷土の魅力を体験する契機となった。 【その他】　本番までの準備日程 ①9/25（月）　②11/14（火）　③　11/29（水） ④12/４（月）	１　地域を知る情報ポータルサイト管理・運営事業 ○令和5年度新規追加コンテンツ数65 （掲載コンテンツ数累計404）（12月末現在） ○令和5年度PV数33,658（11月末現在） ▲更なる利用拡大の推進 ▲学校現場における活用状況調査等の実施方法の検討 ２　郷土の魅力発見・体験プログラム （１）事業実施について ○参加した小学生、中学生ともに地域のよさを体感し、地域について考えることができた。 ○市町村担当者に対し、事業の成果を直接説明する機会をつくり普及に取組んでいるところ ▲中学生のスケジュール調整が難しい。 ①参加人数等集約 参画中学生…19名 参加小学生…58名 運営協力者…10名 行政職員等…13名 ②4地区のアンケート結果まとめ ［小学生］ ○「活動を通して、初めて知ったことや発見などあったか」に対し「あった」「まあまああった」を合わせると84% ○「地元のいいところを見つけることはできたか」に対し、「できた」「少しできた」を合わせると87% ○「来年も参加したいか」に対し、「参加したい」「どちらかというと参加したい」を合わせると100% ○「中学生になった時、事業を企画する側になってみたいか」に対し「やってみたい」「どちらかというとやってみたい」を合わせると94% ○「この事業に参加してよかったか」に対し、「よかった」「どちらかというとよかった」を合わせると100% ［中学生］ ○「活動を通して、初めて知ったことや発見などあったか」に対し「あった」「まあまああった」を合わせると94%

（３）置賜教育事務所

【事業名】「おきたまジモディ（じもと×study）プログラム」

【期　日】　令和5年8月3日（木）

【場　所】　長井市平野コミュニティセンター

【内　容】　保存会の方から平山獅子踊りの歴史について講義を受け、その後、中学生が小学生に、踊りで使用する笛、太鼓の手本を見せたり、衣装の着方や草履のはき方などを教えたりした。その後、平山獅子踊りに関するクイズを出し、小学生は意欲的に歴史や文化を学ぶことができた。当日は別事業で平野コミセンを利用していた15名程の高齢者の方々が見学に訪れ、昼食では小学生、中学生、地域の高齢者が一緒に交流することができた。

【その他】　本番までの準備日程

①5/25（木）　②7/30（日）

普及啓発活動

①11/29（水）　②12/７（木）　③ 12/12(火)

④12/14（木）

（４）庄内教育事務所

【事業名】「大沢で　おぉサイコー！な体験を　～じゅんさいとりにいこうよ～」

【期　日】　令和5年8月1日（火）

【場　所】　酒田市大沢コミュニティセンター

【内　容】　大沢地区で農業用ため池にじゅんさいが自生しており、2000年前後まで、じゅんさい採りが行われていたが、いつの間にか途絶えてしまった。2019年より、復活し、じゅんさい採り体験や販売を行うようになった。今回は、中学生が小学生にじゅんさい採りのコツなどを教えながら、実際にじゅんさい沼に入り、実体験を通した地域のよさや魅力について学ぶ機会となった

【その他】　本番までの準備日程

①4/17（月）　②6/25(日)　④7/30（日）

普及啓発活動

①12/27（水）②1/19（金）③2/16（金）

（５）郷土愛事業担当者間打ち合わせ・学習会

①5/15（月）　②10/3（火）　③1/9（火）

（６）研修会・普及啓発活動の実施

①5/18（木）パワーアップセミナー

②2/9（金）成人期・高齢期教育研修会

○「地元のいいところを見つけることはできたか」に対し、「できた」「少しできた」を合わせると100％

○「来年も参加したいか」に対し、「参加したい」「どちらかというと参加したい」を合わせると100％

○「この事業に参加してよかったか」に対し、「よかった」が100％

③記述式アンケートより

［小学生］

○初めて知ることがあり勉強になった。

○地元のことをもっと勉強したい。

○中学生がやさしく教えてくれた。

○もっと知りたいし、興味をもつことができた。

［中学生］

○この事業を通して、小学生と仲を深めることができた。

○地域に貢献できてよかった。

○地元のことがもっと好きになった。

○地域のよさをみんなに発信できるようにしたい。

○このふるさとに生まれたことを誇りに思い、これからにつなげたい。

［運営協力者・自治体担当者］

○中学生が町のことについて学ぶきっかけとなり、そこから町のことや魅力、課題などを話していてよかった。

○参加した中学３年生が、来年、高校生として参加したいという声があり、他の中学生もまた参加したいとのことだったので、小・中・高生を対象にして、事業内容を検討したい。

○私たちが想定していた何倍も上の発想が出てくるので、その子どもの要望に応えられる材料や環境、対応が重要だと思った。

▲中学生が主体となる事業という点では、今回は準備期間が少なかった。

▲前年度から話をいただければ、もっと準備ができた。

▲中学生の多忙なスケジュールをおさえるのは非常に難しく、事前の企画から関わってもらうには、学校側の協力も必要だと思った。

（２）普及啓発について

①2/9（金）成人期・高齢期教育研修会での事例発表

②教育事務所ごと、公民館・コミセン担当者への事業説明会の実施

③生涯学習センター広報紙への掲載

３　郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する

（２）山形の宝の保存活用・継承

事業名：伝統芸能育成事業 子ども伝承活動 ふるさと塾 （平成 17 年度開始、平成 19 年度文化振興課より移管、平成 24 年度事業統合）	
令和５年度事業の実施状況	成果（○）と課題（▲）
１　市町村総合交付金の活用 30 市町村に交付決定	１　市町村総合交付金の活用 ○各市町村の要望を踏まえ、交付することができた。
２　記録保存システムの運用 （１）賛同団体の集約 ・R5.3 月末現在 308 団体 ※ＫＰＩ：308 団体に１団体足りない状況 ※学校の統廃合等により現状はさらに減少している ※4 団体に賛同証送付 （伊佐沢念佛踊り、尾花沢小茶道クラブ、徳良湖ヨット倶楽部、結城豊太郎記念館） （２）ふるさと塾アーカイブス取材 ・候補団体の取材・編集進行中 ※映像確認・団体紹介文の作成・承諾書の提出を随時依頼） （３）英語表記化に向けた取り組み ・今年度 4 団体を予定し、12 月に各教育事務所に英語表記化の望ましい団体を推薦依頼。	２　記録保存システムの運用 ○各地区からアーカイブス化する団体を選出してもらい、計画的に撮影・編集することができた。 ○国際ドキュメンタリー映画祭会場に英語のちらしを設置するとともに、ゲストに配付することができた。 ▲学校の統廃合により、ふるさと塾登録団体が減っている。今ある団体の存続や継続、発展に力を入れていくことも大切。 ▲講師や団体メンバーの高齢化に伴って活動が維持できない団体も出てきている。
３　指導者の育成 村山地区 最上地区 置賜地区 庄内地区 指導者研修会と出前講座を実施 （出前講座は各地区 10 回程度予定） ・終了次第、随時報告書を提出 44 団体で実施（12 月末現在）	３　指導者の育成 ○出前講座・研修会の実施が地域で民俗芸能や伝統文化の継承に携わる方の励みとなっている。今後も継続してさらに充実させていきたい。 ○新しい団体からの申し込みもあり、多くの方に周知することができた。 ▲開催時期が早い団体を優先することが多く、他の団体に同じように機会を持たせられるよう募集の工夫等が必要。
４　子どもたちの発表の機会 〔文化スポーツ振興課（博物館・文化財活用課）主管〕 （１）やまがた伝統文化フェスタ「ふるさと芸能のつどい」の実施 【期　日】11 月 26 日（日） 【場　所】文翔館　議場ホール 【参　加】ふるさと塾賛同団体 2 団体 長瀞獅子踊クラブ、花笠舞踊団の披露と体験活動	４　子どもたちの発表の機会 ○「ふるさと芸能のつどい」に、村山地区から 2 団体が出演、発表機会を設けることができた。 ▲「ふるさと芸能のつどい」は今年度で終了となる。来年度の子どもたちの発表の機会の場について検討が必要である。
５　その他 （１）民俗芸能懇話会（博物館・文化財活用課主管） 【期　日】　10 月 13 日（金） 【内　容】　情報提供、情報交換等	５　その他 ○各団体の活動状況や要望等について情報交換しあうことができた。

（３）青少年の地域力の育成・地域活動の促進

事業名：郷土愛・地域人材育成事業（地域青少年ボランティア活動推進事業）	
令和５年度事業の実施状況	成果（○）と課題（▲）
１　中央センター事業 （１）山形県地域青少年ボランティア推進会議 ・第１回会議 5/10　※オンライン ・第２回会議 2/26　※オンライン （２）ＹＹボランティアビューロー ・サークル活動調査 ・ホームページ等による情報発信 ・夏の体験ボランティア （参加者総数）　R5 年度：1,387 名 （R4 年度：744 名） ・ＹＹボランティアに関する出前講座 ・高校生のボランティア活動実態調査 （公立高校３年生のボランティア経験率） Ｒ５年度:81.6%（R4 年度：77.1%） ２　地区センター事業 （１）地区地域青少年ボランティア推進会議 ・サークル担当者との連絡調整･情報交換等 （年２回） 第１回推進会議　村山:5/12　最上:5/22 庄内:5/23　置賜:5/30 第２回推進会議　村山:2/2　最上:2/2 庄内:2/14　置賜:2/13 （２）ＹＹボランティアサークル活性化事業及び地域でボランティア活動に取り組む青少年増加に向けての事業 ○ 村山 ・MYボランティアスタートアップセミナー（6/20） ・MYボランティアスキルアップセミナー（8/1、2） ・MY ボランティアサークル交流会 ・YY ボランティアサークル支援 ○ 最上 ・最上地区ヤングボランティア交流会＆フェスティバル（2/3） ○ 置賜 ・置賜地区中高生ボランティアセミナー（8/2） ○ 庄内 ・庄内地区ボランティアサークルスキルアップ出前講座（7/10）	１　中央センター事業 （１）県推進会議 ○年２回の開催により、各地区の現状や活動について情報交換をすることができた。 （２）ＹＹボランティアビューロー ①HP などによる情報発信 ○ＹＹボランティアビューローHP の閲覧数は、昨年度来、更新頻度増や一層の内容充実を図り、一日 300PV～1000PV となっている。 ・高３ボランティア実態調査 ○令和５年度は、昨年比＋4.5%で、学校外でのボランティア経験率が回復した。学校の外に高校生の活躍の場が増えており、地域もそれを求めていると考えられる。 ・夏の体験ボランティア ○令和５年度参加者数の内訳は、中学生は 349 名（昨年比＋163 名）、高校生は 636 名（昨年比＋137 名）の参加。受け入れ団体・施設から「若い人が来てくれて施設や利用者が元気になった」という趣旨の回答多い。 ▲参加してくれる施設・団体を増加させたいが、反面、担当者の負担が大きくなる。適正規模の見極め、参加団体とのやり取りの負担軽減の策の検討は必要である。事業の持続可能性も大事にしたい。 ２　地区センター事業 （１）地区推進会議 ○年２回の開催により、各市町村の取組についての情報交換を行うことができた。また、ワークショップ等を通じて、担当者同士、担当者とファシリテーターとのつながりをつくることができた。 （２）YY ボランティアサークルの活性化事業及び地域でボランティア活動に取り組む青少年増加に向けての取組み ○サークル交流会、スキルアップセミナー、地域イベントへの参加など、ボランティアについて学習したことを地域で実践する機会や場を設けることにより、参加者がスキルや能力を発揮し、高い充実感を得ることができた。 ３　その他 ▲少子化や学校教育活動内のボランティア活動が重視されてきていることから、これまでのＹボラの考え方(各市町村･地域の人々が運営、学校の枠を越えて、地域主体の活動）について、考え方と方向性の検討が必要である。

（３）青少年の地域力の育成・地域活動の促進

事業名：郷土愛・地域人材育成事業（次世代の地域づくり中核人材育成事業）	
令和５年度事業の実施状況	成果（○）と課題（▲）
１　次世代の地域づくり中核人材育成事業 ※青年ファシリテーター１５名　(R6年１月現在) （村山４名,最上４名,置賜３名,庄内４名） (1)村山教育事務所 【事業名】『いっしょにLinkる？～「やってみたい」をかたちに～』 【参画者】　高校生６名 【企画内容】　「Link　MURAYAMA」(村山市）で開催する“やままる祭”において、村山市を元気にしたいというやままる祭実行委員会や地元の企業の方と連携し、キーワードラリーを企画・運営した。来場した親子対象に、施設内に、ボウリング、まちがい探し、ぬり絵、動くスポットを設置し、施設内を巡る仕組みを考えた。考案したオリジナルキャラクターを用いて、キーワードラリーのパンフレットを作成し、来場者に村山市や施設の魅力を発信した。 (2)最上教育事務所 【事業名】　「Youは何する？最上（てっぺん）で！」 【参画者】　高校生 【企画内容】 ① 陸羽東線の最上町の駅名が書かれた　　くじを引いて、新庄駅から、引いた駅名の駅に出かけた。その駅の周辺を散策し、これまで知らなかった新たな魅力を「魅力発見マップ」にまとめた。1月から最上広域交流センターゆめりあに掲示の予定。 ② 旬の最上伝承野菜を使ったラーメンを考案し、試作した。投票により最上（てっぺん）ラーメンを決め、総合支庁内食堂の「お食事処千起」さんに提案した。千起さんが試作したすべてのラーメンを11月下旬から週替わり定食で提供していただいた。 (3)置賜教育事務所 【事業名】　「おきぼら地域クリエイターcrossover」 【参画者】　高校生7名 【企画内容】　川西町こども食堂「なかよしキッチン」で、「SDGｓババぬきカードゲーム」と「なぞとき迷路」を企画・実施し、参加した80名の親子に楽しんでもらった。	１　次世代の地域づくり中核人材育成事業 ○プログラムの構成を考えたり参画者へ的確に助言したりするなど、青年ファシリテーターの存在は大きく、青年ファシリテーターが、中高生の「やりたい」という思いを引き出し、ファシリテートしてくれた。 ○イベントの主催者や地域の企業に対して、高校生参画者が自分たちの考えた企画を提案したり、必要な物品の調達を依頼したり、地域の大人と関わりながら企画を進めることができた。 ○管内の全ての高校に出向いてチラシを配布したことで、5 つの高校から本事業に参画することになった。 ○中高生たちは、初めて自分たちでイベントを企画・運営していくことを経験できた。準備や当日の運営をとても楽しんで行っている様子が見られた。地域のために自分たちができることを実施していくことの大切さを感じたようであった。 ▲青年ファシリテーターと直接会う機会が少なく、オンライン参加の会議が多くなった。話し合いの内容等によっては、参集しての会議等も行うと良かった。 ▲青年ファシリテーターの選出、委嘱に時間を要した。地域の青年リーダーに関する情報収集を積極的に行う必要があった。

(4)庄内教育事務所 【事業名】　「三川町ボランティアサークル来夢来人の前進」 【参画者】　高校生５名 【企画内容】 ①みかわまち納涼祭という地域のイベントで、自分たちが企画した「ビンゴ大会」「クラフト体験コーナー」「フォトスポット製作」「レモネードスタンドプロジェクト　レモネード販売」を行った。 ②来夢来人の活動を紹介する冊子を中高生で分担して作成する。その冊子を中学校に配布し、活動内容の紹介をしていく。	
２　未来の参画者養成事業（中学生セミナー） (1)村山教育事務所 【事業名】「MYボランティアスキルアップセミナー」 【参加者】　中学生52名 【期　日】　令和5年8月1日（火）～2日（水） 【場　所】　山形県青年の家 【内　容】　ボランティア講話、グループワーク 実技講座、ボランティア体験 サークル紹介、施設訪問 (2)最上教育事務所 【事業名】　「最上地区中学生ボランティアセミナー」 【参加者】　中学生27名 【期　日】　令和5年8月2日（水） 【場　所】　最上広域交流センター　ゆめりあ 【内　容】　講話、サークル紹介、実技講座 フィールドワーク (3)置賜教育事務所 【事業名】　「置賜地区中高生ボランティアセミナー」 【参加者】　中学生10名 【期　日】　令和5年8月2日（水） 【場　所】　飯豊少年自然の家 【内　容】　講話、実技講座、 白椿学童クラブでの児童との交流	２　未来の参画者養成事業（中学生セミナー） ○MY ボランティアスキルアップセミナーでは、多くの申込みがあり、参加者の中から、MY ボランティアスタートアップセミナーに引き続き申込みがあり、事業を継続して展開することができた。(村山) ○各市町ボランティアサークルの高校生・大学生11 名が班付アドバイザーとして協力いただいたことにより、参加した中学生がより主体的に取り組む姿が見られた。(村山) ○中学生の参加意欲が高く、積極的に参加したり、他校の参加者と交流したりしていた。(最上) ○フィールドワークを受け入れてくださった施設・団体の種類が多様で、様々な活動をすることができた。(最上) ○参加者全員が参加してよかった、今後ボランティアや地域活動に参加したいという前向きな思いを持つことができた。また、2/3 の参加者がボランティアや地域活動に参画したいという思いを持つことができた。実際に、本事業の参加者 2 名が、自然の家主催事業にボランティアとして参加した。(置賜) ○次世代の地域づくり中核人材育成事業と兼ねて実施したことで、中学生にも地域づくりに熱心に取り組んでいる方の話を聞く機会を持つことができた。また、中学生と高校生が共に活動することで、互いによい刺激を受けることもできた。(置賜) ○参加した中学生は午後からの小学生との交流のことを考えて、午前中のスキルアップ講座を受講する姿が見られた。その結果、どのブースも小学生が楽しそうに体験することができていた。(庄内)

(4)庄内教育事務所 【事業名】　「Yボラサマーチャレンジin庄内」 【参加者】　中学生26名 【期　日】　令和5年8月2日（水） 8月4日（金） 【場　所】　鶴岡市朝暘武道館 遊佐町生涯学習センター 【内　容】　サークル紹介、実技講座 小学生との交流	▲熱中症警戒アラート発令のため、外での活動は全て中止した。急な変更となったため、あらかじめ代替案を準備しておく必要があった。今後も夏は気温が上昇することが予想されるため、参加者の熱中症対策が必須となってくる。そのため、事業の開催時期や場所、内容、中学校の行事調整等を検討していく必要がある。 ▲高校生ボランティアサークルのメンバーの参加が少なかった。高校生が入ってくれていた班は、中学生参加者をリードし、とてもスムーズに活動できていたため、全ての班にサポートに入れるくらいの人数がほしい。 ▲自然の家の事業と重なっていたことから所バスの使用ができなかった。次年度に向けて日程を再検討していく。また、終了時刻を少し遅くするなどして、ゆとりのあるプログラムを編成する必要がある。 ▲市町担当者の参加が少なかった。また、サークルで参加するところがなく予定していたサークル間の情報共有が実施できなかったので来年度は、サークル担当者から多く参加してもらえるような体制をつくっていく。 ▲地区によっては、中学生の参加が得にくかった。そのためサークル担当者や会場近隣の中学校に連絡し参加のお願いを行った。学校によっては生徒のタブレットにチラシデータを送っていただいた。

4　活力あるコミュニティ形成に向け地域の教育力を高める

（1）学校と家庭・地域の連携協働の推進

事業名：学校・家庭・地域の連携協働推進事業	
令和５年度事業の実施状況	成果（○）と課題（▲）
1　地域と学校との連携協働推進協議会（生学課） 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進を図るため協議会を開催し、協議する 【期　日】令和５年８月 23 日（水） 【内　容】令和５年度の事業概要及びコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を活かした「働き方改革」につながった事例・成果・課題等について	1　地域と学校との連携協働推進協議会 ○各委員からそれぞれの学校等で実践している働き方改革につながる実践について情報共有することができた。
2　地域とともにある学校づくり研修会（教育事務所） 「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」「社会に開かれた教育課程」などキーワードを関連付けながら、学校関係者や子どもに関わる団体の関係者の理解を図り、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進を図る。 ※4 事務所の参加者合計 265 名 （教員等 77 名　行政 58 名推進員等 40 名 その他 42 名　事務局 48 名）	2　地域とともにある学校づくり研修会 ○中央講師による講演や県内各地で活躍されている推進員、コーディネーターの事例提供、グループワーク等を通して、CS と協働活動の一体的推進の重要性について理解を深めることができた。参加者は、高い関心を持って研修会に参加した。 ▲教員等の参加者数が 77 名あったが、管理職や社会教育主事有資格者以外の教員参加者が少ない。より多くの先生方から参加してもらえるような方策が必要である。
3　指導者の育成・学習機会の提供 （1）地域学校協働活動推進員養成講座の実施（生学課） 地域学校協働活動推進員等を対象として、学校と地域をつなぐコーディネーターとしての役割や各市町村の地域学校協働活動の事例、推進員同士のネットワーク形成を図るための研修会を開催し、推進員等の資質向上や相互の情報交換を図る。 ＜第１期＞ （日時）令和５年６月 23 日（金） （会場）山形県生涯学習センター遊学館　第１研修室 （参加数）33 名 （事例提供者）堀川敬子氏（山形市立第一小学校地域学校協働活動推進員） 内容：「山形市立第一小学校　地域学校協働活動の事例～いちサポの取組み～とグループワーク」 ＜第２期＞　各教育事務所が主管となって実施 ※４事務所と生学課での参加者合計 148 名 （推進員等 70 名　行政 35 名　教員 13 名　その他５名事務局 25 名） （2）コーディネーター等人材発掘 ＰＴＡ指導者研修会（11 月開催）、退職教職員に向けて、推進員に関する周知文書の配付	3　指導者の育成・学習機会の提供 （1）地域学校協働活動推進員養成講座 ○養成講座は、推進員同士のネットワーク形成を図る上で有意義な研修会となっている。 ▲グループワークや情報交換の時間をより多く設定する必要がある （2）コーディネーター人材発掘 ○令和５年度は 450 部印刷し、配付した ▲対面での説明は、オンライン化に伴い R3 年度以降行っていない。

４　市町村補助授業の実施 ※地域学校協働活動・ＣＳ出前講座 村山 14 回　最上 2 回　置賜 3 回　庄内 6 回 （１）運営委員会の設置 （２）地域学校協働活動推進員等の配置（282 名） （３）地域学校協働本部の整備と地域学校協働活動の実施 ・学校の働き方改革を踏まえた活動 （30 市町村 189 校実施） ・放課後等における学習支援や体験活動の実施 （32 市町村 148 校実施） （４）地域未来塾の実施　（14 市町村 22 校実施）	４　市町村補助授業の実施 ○出前講座のニーズが年々高まっている。 ○補助事業については、交付申請の書類を適正に提出できるように説明会を開催するなど、市町担当者との連携を図りながら取り組むことができた。

（１）学校と家庭・地域の連携協働の推進

事業名：放課後子ども総合プランの推進	
令和５年度事業実施状況	成果（○）と課題（▲）
１　山形県放課後子ども総合プラン推進協議会の開催 （生学課・子ども成育支援課）　9/5（火）	１　放課後子ども総合プラン推進協議会 ○放課後子ども教室の実施や、放課後児童クラブの実態、参加している子どもたちの様子等について、現場の声を中心に情報交換や協議をすることができた。
２　地域学校協働活動推進員養成講座の開催（再掲）	２　地域学校協働活動推進員養成講座 （再掲）
３　指導者研修会の開催（教育事務所） ○村山：8/30（講演：本郷 一夫 氏） 11/15（実技研修） ○最上：6/20（講演：花笠ほーぷ隊） 10/31（実技研修） ○置賜：6/7（実技研修） 9/12（講演：島田 妙子 氏） ○庄内：6/9（講演：矢生 秀仁 氏） 7/11（実技研修） 11/21（講師：佐藤愼二氏）	３　地区指導者研修会 ○各地区とも充実した研修となり、満足度や次回への期待度が高く、子ども教室・児童クラブ関係者が学ぶ貴重な機会となっている。 ○4 年ぶりに対面での実技研修を開催し、参加者に自らのニーズに合った分科会を選んで受講いただくことができた。 ▲地区によっては会場の大きさや受け入れ体制などを考慮しつつ、より多くの参加者を集めて実施することを検討したい。 ▲開催場所が遠いという意見が出る地区があり、参加しやすくする工夫が必要である。 ▲参加者より経験年数の制限をなくしてほしいと要望があり、今後検討する。
４　スミセイ放課後子ども総合プラン指導者研修会の開催 【日 時】10/27（金） 【会 場】鮭川村中央公民館 【対 象】放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ関係者、地域学校協働活動担当行政職員　等 【内 容】 ①スミセイアフタースクールプログラム（出前講座）の参観 ②ほうかご勉強会の受講	４　スミセイ放課後子ども総合プラン指導者研修会 ○放課後子ども教室の参観プログラムでは、プロの出前講座が参観でき、ほうかご勉強会では、有意義な情報交換ができた。 ▲参加者が例年少ない傾向にある。周知の工夫をさらに図っていく必要がある。
５　市町村補助事業の実施　（全小学校区数 222） （１）運営委員会・学区ごとの協議会（一体型のみ必置）の設置 ※市町村の「行動計画」や「放課後子どもプラン」の策定、事業の充実及び連携の方策の協議 （２）地域学校協働活動推進員（コーディネーター）配置 （３）放課後子ども教室の実施 ・32 市町村 114 箇所実施予定（令和 5.12 月） （R4：31 市町村 104 箇所） ※一体型 8 市町　17 箇所（1 箇所減） （４）放課後児童クラブの実施（主管;子ども成育支援課） ・34 市町村 342 箇所設置（R4：34 市町村 344 箇所）	５　市町村補助事業の実施 （再掲）